

CKD(慢性腎臓病)対策

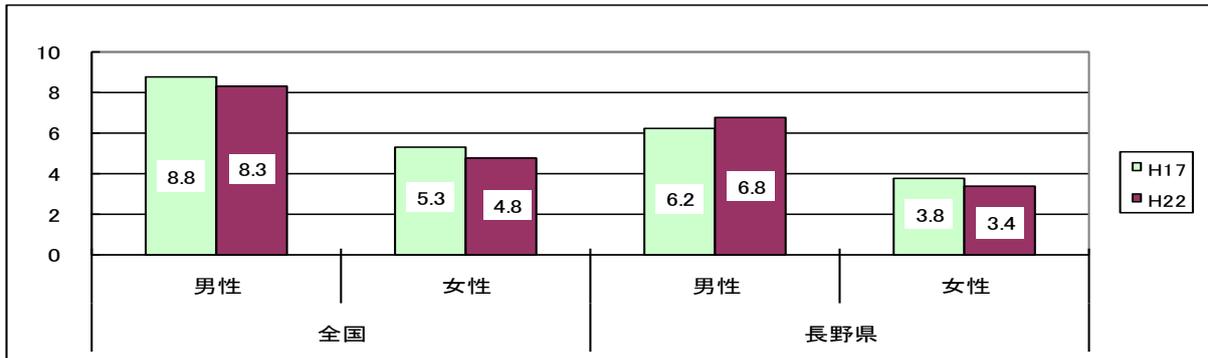
第1 現状(これまでの成果)と課題

1 腎不全による死亡

H29年度中にH27調査結果公表予定

- 長野県の腎不全による男性の年齢調整死亡率は増加しています。

【図1】 腎不全による年齢調整死亡率(人口10万対)

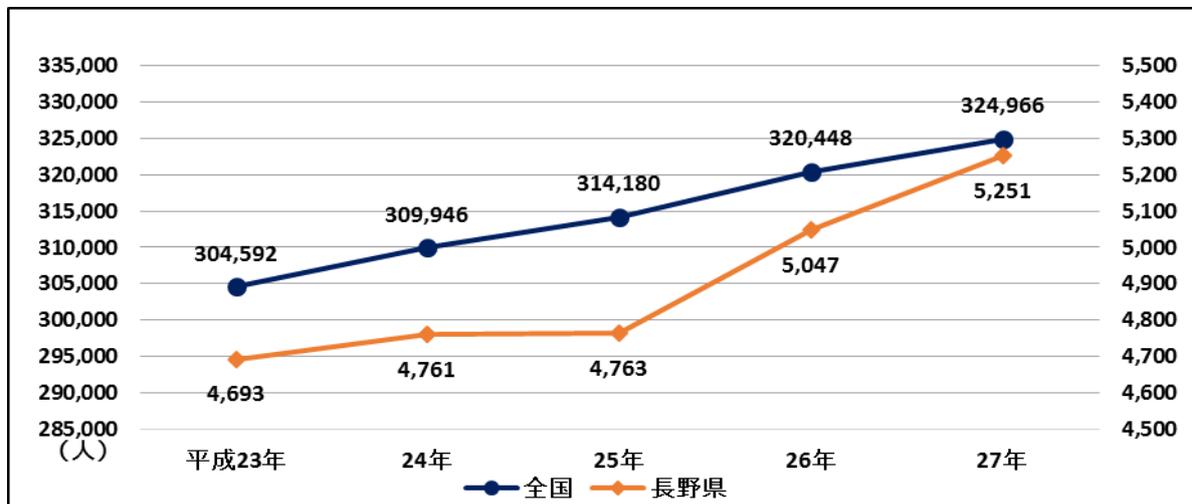


(厚生労働省 人口動態特殊報告「都道府県別年齢調整死亡率」)

2 慢性人工透析の患者数

- 慢性人工透析患者数は本県、全国で増加傾向にあります。

【図2】 慢性人工透析患者数の推移



(日本透析医学会 図説「わが国の慢性透析療法の現況」)

【表1】 長野県の人工透析患者について

		23年	24年	25年	26年	27年
透析治療患者数	全国	304,592	309,946	314,180	320,448	324,986
	長野県	4,693	4,761	4,763	5,047	5,251
新規透析導入患者のうち 現疾患に記入があった患者数		596	567	514	595	545
新規透析導入患者のうち 糖尿病性腎症の患者数		231	251	214	236	219

(厚生労働省「人口動態統計」)

3 透析導入患者の原疾患

- 透析導入の原疾患としては糖尿病性腎症が最も多くなっています。
- 透析導入患者の高齢化を反映し、腎硬化症が増加傾向にあります。

【表2】 透析導入の主要原疾患割合推移 (%)

	平成 12 年	17 年	22 年	27 年
糖尿病性腎症	36.6	42.0	43.6	43.7
慢性糸球体腎炎	32.5	27.4	21.0	16.9
腎硬化症	7.6	9.0	11.7	14.2

(日本透析医学会 図説「わが国の慢性透析療法の現況」)

4 CKD（慢性腎臓病）の患者数

- 成人の8人に1人がCKD（慢性腎臓病）と推計されていますが、腎機能異常に気付いていないCKD（慢性腎臓病）患者が多数存在すると推測されます。

【表3】 全国及び長野県の患者推計数

推計患者	CKD 患者	うち要治療者*1
全国	約 1330 万人 (12.9%)	約 590 万人 (5.7%)
長野県*2	約 22 万人	約 10 万人

(日本腎臓学会 CKD 診療ガイド 2012 による推計値)

*1 タンパク尿が陽性または、GFR50ml/分/1.73 m²未満

*2 長野県の患者及び要治療者（全国の値を基に、長野県毎月人口異動調査 H29.4.1 による 20 歳以上人口 1,711,838 人から推計）

5 市町村における取組

- CKD（慢性腎臓病）予防のために、市町村では下記の取組を行っています。

【表3】 市町村における取組内容

取組	実施内容	実施状況
住民向けの講演会	あり	24 市町村 31%
検査の実施	血清クレアチニン検査	74 市町村 96%
保健指導	検査の結果に基づく指導	59 市町村 77%

(保健・疾病対策課 平成 27 年度調査)

(参考)

● CKD (慢性腎臓病)

- CKD:chronic kidney disease (慢性腎臓病)とは、2002年にアメリカで提唱された新しい概念であり、下記のいずれか、または両方が3か月以上続いている状態をいいます。
 - ① 腎臓の働き (GFR) が健康な人の60%以下に低下した状態 (GFRが60ml/分/1.73m²未満)
 - ② タンパク尿 (微量アルブミン尿を含む) などの尿異常、画像診断や血液検査、病理所見で腎障害が明らかである状態 (日本腎臓学会「CKD診療ガイド2012」)
- CKD (慢性腎臓病) が進行し、重症化すると、人工透析が必要になります。また脳卒中や心筋梗塞などの発症リスクを高めます。治療開始が遅れると進行しやすいので、早期診断・早期治療が重要です。
- CKD (慢性腎臓病) の脂質異常症や肥満をきたすメタボリックシンドローム、高血圧、糖尿病、高尿酸血症などの生活習慣病が関与していますので、糖尿病などの生活習慣病予防が大切です。
- 糖尿病の増加に伴って、糖尿病性腎症も増加し、CKD (慢性腎臓病) の最大の原因となっています。また、糖尿病性腎症は、透析導入が必要になる疾患の第1位でもあります。
- CKD (慢性腎臓病) という言葉やその内容は十分周知されておらず、治療が必要な人が受診していない可能性があります。

CKD(慢性腎臓病)対策に関する論点

- 1 県民への普及啓発をどのように進めるべきか。
- 2 透析患者数の増加を踏まえ、県としてどう取り組むべきか。